

【野菜】の【降灰】対策について

<通年>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【野菜】

(1) 予想される被害状況

降灰による日照不足
生産物への灰の付着等
施設の破損

(2) 事前対策

桜島、霧島山系、阿蘇山等、活動が活発になっている火山の影響下にあり、一旦噴火が起こると県内各地で降灰等による被害が発生する可能性があるため、火山情報にも注意をはらう。

(3) 事後対策

【施設園芸共通】

- ①ビニルハウス等の被覆資材に付着した火山灰は、速やかに除去する。
(注) 高所での作業の際には、転落事故が起きないように十分注意する。
- ②噴石等によって破損したビニル等の被覆資材は、速やかに補修を行う。
- ③ハウス内の光線透過量は、被覆資材面に100g/m²の降灰があると約30%の光量に、また、200g/m²の降灰で約20%の光量となる(注)。
(注) 主要品目の光飽和点は、ピーマン・いちご4万ルクス
きゅうり5万ルクス、トマト7万ルクスである。
- ④被覆資材面の除灰には、動力噴霧器による高圧ノズル(鉄砲ノズル等)を利用した洗浄が最も効果的である。(下記、《火山灰の除去対策》を参照)
- ⑤ハウス谷部の火山灰堆積が多い場合には、ハウス内部への火山灰の流入の可能性や、巻き上げ部の埋没等により換気ができなくなることがあるので、谷部の除灰作業を優先する。
- ⑥被覆資材面に残る微細な火山灰は、洗浄しても落ちないため、できるだけスポンジや布等を利用して、傷つけないよう注意して拭き取る。

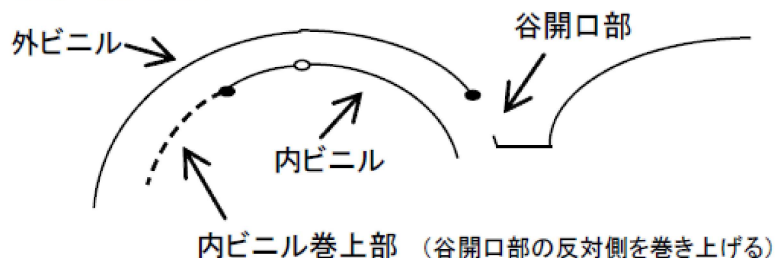
《火山灰の除去対策》

- ①火山灰の堆積が多い場合は、ブロワーを利用し、風圧で積灰量を減らした後に、動力噴霧器による水を使った高圧洗浄を行う。(ブロワーを使用する際は、周囲への飛散に注意する)
- ②火山灰堆積が多く、降灰が続く場合は、ブロワー等で適宜除去を行い、降灰が治まった後、高圧洗浄を行う。
- ③堆積の少ない場合は、直ちに高圧洗浄を行う。
- ④洗浄後も火山灰が被覆資材表面に残り、光線透過量の低下により作物の生育に悪影響を及ぼす場合には、資材を傷つけないように注意しながら、寒冷紗など柔らかな素材で払い落とす。
- ⑤ハウスの被覆資材面の除灰作業に多量の水を使用する場合は、ハウス内外の排水に留意する。

《降灰時のハウス内管理》

- ①天井及び谷部に堆積した火山灰が、直接作物に付着しないようブロワー等で除去した後、谷部及びサイドビニルの開閉を行う。
- ②9月頃の定植期以降10月まではハウス内が高温となるため十分な換気を行うが、降灰により換気ができない場合は、日中の遮光ネット被覆等によりハウス内温度の低下を図る。
- ③堆積火山灰の除去ができない場合は、ハウスサイド部の開閉で温度調節する。
- ④谷部開閉を行う場合には、谷開口部側の内ビニルは開かず、火山灰のハウス内への侵入による作物への付着を防止する。(下図参照)
- ⑤野菜類では葉等への微量の付着での影響は少ないが、多量の付着がある場合には、動力噴霧器等により洗い流す。

図) 上記③の換気方法



【露地野菜共通】

1. 作物の除灰は、ブロワーによる払い落としや動力噴霧器及びスプリンクラー等による散水によって速やかに行う。(ブロワーを使用する際は、周囲への飛散に注意する)
2. 払い落としや散水を行う際には、茎葉を傷めない程度の風圧・水圧に注意する。
3. 火山灰が残らないよう、十分な水量で洗い流す。